

マッチコミッショナー(MC)・第4の審判員の役割について

- ◎本部担当チームで MC担当者を決定し、MC業務のみを担う、本部の仕事は行わない

MC	審判
- ◎審判担当チームで 第4審判担当者を決定し、代位4審判業務を担い本部手伝いは行わない

 - ・MCと第4の審判員はシニア委員会決定の黒のビブスを着用し、明確に役割を担う
 - ・MCと第4の審判員は「審判打合せ後、報告書」に氏名を記載し担当を明確にする

◎MC役割の明確化

※本部、試合の観察、審判へのアドバイス(意見交換)実施

--

1. M.C主導により、試合30分前に審判団に打ち合わせを指導する。

- ・打合せは主審主導で確認を行う事。審判委員会派遣時は主審の指示で確認する。
- ・主審に、怪我・故障等が有る時の交代は誰が主審を務めるか事前確認を行う。
A1. 第4. 審判が行うか、事前に決めておく事。副審、第4審判は時計、笛、警告カードをチームで準備しておく事。
審判打合せ終了後、本部審判報告書に事前署名をする事。
第4審判により、試合中交代選手は本部で確認後、第4審判が用具チェック後、主審、副審に伝え交代する。
交代の際、退出選手番号を明確に伝え、交代させる事も第4審判の役目とする。

※審判打合せ内容例】

オフサイドの取るタイミング。主審が見えない所のサポート、フラッグにより合図など、事前確認！

2. 審判、本部含め試合の全ての責任を担う
3. 試合開始前、審判(副審含め)業務の確認
 - 1) 審判用具、服装チェック(審判着の着用チェック、ソックスをしっかりと履いているか確認)
時計・審判用具のチェック
 - 2) 試合時間: アディショナルタイム(ADT)の有無・熱中症対策(クーリングタイム2分間) ADTとはしない
 - 3) 大きな怪我以外、ADTはとらない
 - 4) 主審と副審との関係確認 試合後、審判団の評価、重大な事象が生じた場合は本部含め確認連絡！
 - 5) 審判の試合全体のコントロール
判定の的確・一貫性、争点との距離、走力、笛の強弱、副審との距離・評価、コミュニケーション他
審判団に問題が有る時はM.Cより本部担当者を含め、審判報告書に沿い伝え、能力の向上を図る。
 - 6) 審判に明らかな誤審等有る時は本部役員帯同でMCより指摘する

4. 懲罰発生時はMCより、必要に応じ審判団(副審含め)、本部、当該代表者を集め再確認する | | |--| | | |--| 一発退場発生時確認(いつ、どこで、だれが、何をどうした、主審の処置、コメント他)

*各担当者(①審判②本部③対戦チーム代表者④退場チーム代表者⑤退場選手弁明書)より調書作成提出指示

- ・対戦当該選手調書、MC担当者調書の提出を求め、CFA 片平役員に提出、確認する事！
- ・必要に応じ、各担当者に指示、確認

「聴取書類更新版」、「MC入り審判報告書更新版」で審判報告書とする

5. 審判報告書にMC・第4審判担当者の確認 | | | |--|--| | | | |--|--|

- ・審判評価→「優」・「普」・「劣」 問題が有る時は審判へ本部同行の上評価を行う
- ・審判団はMC指摘事項の確認をする

※第4の審判員の役割 | | | |--|--| | | | |--|--|

- ・第4の審判員の明確化、審判団としてその任務を担う
- ・第4の審判員は主審・副審同様に試合のコントロール、意見交換を行う
- ・第4の審判員は用具チェック、交代の確認、交代の指示、ベンチコントロールを行う
- ・第4審判により、試合中交代選手は本部で確認後、第4審判が用具チェック後、主審、副審に伝え交代する。

※交代の際、退出選手番号を明確に伝え、交代させる事も第4審判の役目とする。

- ・試合前のメンバーチェックは本部にて行う
- ・懲罰事象、主審他、審判団との意見交換を行う。

【Memo】
